

---

# 小さなノアの手

樋浦蓮斗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

小さなノアの手

### 【NZコード】

N85640

### 【作者名】

樋浦蓮斗

### 【あらすじ】

娘が産まれるまでの事です。

少し心があつたかくなると思います。

2007年7月19日僕たちは結婚した。

本当は7が3つ揃う17日が良かつたのだが、大安じやないと周りに反対された。

彼女のお腹には既に新しい命が宿つていた。  
断つておくが、出来ちゃった結婚ではない。  
結婚が決まってから出来た赤ちゃんだった。

文章で書くのは簡単だが、当時は初めての事で、出産まではホントにドキドキした。

無事に産まれて来てくれればそれでよかつた。  
彼女がお腹が痛いと言うと、夜中でも病院へ行つた。

予定日は2008年2月18日だった。

1月31日、お腹が痛いと言うのでまた病院へ行つた。

…そしてそのまま彼女は入院した。

1人で帰る車の中は不安だらけだった。先生の話だと、明日には薬を使って産ませるとの事。

まだ2週間程あつた余裕は、一気に焦りに変わつた。  
夜になると病院と彼女からの電話。

薬を使う前にもう陣痛が来たらしい。

明日まであつた余裕はもう完全に無くなつた。

午前4時僕は車を走らせた。

陣痛の痛みから苦しむ彼女。

何もできず隣にいる僕。

分娩室に移つた。

看護師さんが先生を呼びに行つた。

『オングヤー、オングヤー』

先生を呼びにいっている間に娘は産まれた。

その時何故か僕は泣いていた。

悲しいわけじゃないのに。

：凄く嬉しくて、だけど嬉しいって感情だけじゃない、何かで：

僕達は、この子が誰からも愛されるように乃愛と名付けた。

(後書き)

産まれた時は2110kgの彼女も、もうすぐ3歳になります。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8564o/>

---

小さなノアの手

2010年11月12日01時09分発行